

平成22年3月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成21年7月28日

上場会社名 株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ

上場取引所 東

コード番号 5726 URL <http://www.osaka-ti.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 西澤 庄藏

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 咲尾 一郎

TEL 06-6413-3310

四半期報告書提出予定日 平成21年8月11日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	8,246	△40.3	1,049	△79.7	742	△85.9	340	△88.9
21年3月期第1四半期	13,815	—	5,163	—	5,255	—	3,080	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	9.26	—
21年3月期第1四半期	83.72	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
22年3月期第1四半期	88,532		46,131		52.1		1,253.61	
21年3月期	96,930		47,250		48.7		1,284.03	

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 46,131百万円 21年3月期 47,250百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
22年3月期	—				
22年3月期 (予想)		7.50	—	7.50	15.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 累計期間	16,600	△40.4	1,200	△87.3	600	△93.6	300	△94.5	8.15
通期	35,500	△31.8	3,100	△78.9	2,000	△85.9	1,140	△86.2	30.98

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

〔(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。〕

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

〔(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。〕

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第1四半期	36,800,000株	21年3月期	36,800,000株
② 期末自己株式数	22年3月期第1四半期	1,124株	21年3月期	1,082株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年3月期第1四半期	36,798,912株	21年3月期第1四半期	36,799,018株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想につきましては、現時点における将来の見通しを含んで記載しております。実際の業績は、様々な要因によってこれらの予想数値と異なる場合があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、一部の業種で輸出の回復や景気対策の効果により、持ち直しの動きがみられますが、昨秋以降の急激な景気悪化を埋めるには程遠く、企業収益や設備投資の大幅な減少、雇用情勢の更なる悪化等依然厳しい状況が続いております。

当社事業につきましては、チタン事業では、平成20年下期からの航空機用を主体とする輸出向け需要の急減に加え、国内向けでも、世界的不況に伴う国内外の設備投資の大幅な減少を受けた日本の展伸材メーカーにおける産業プラント用などの受注低迷と在庫調整の影響により、展伸材用スポンジチタンの需要が大きく減少するとともに、販売価格も前年契約比下落しました。また、鉄鋼添加用スポンジチタンにおいても、鉄鋼業界の減産によって需要減少・市況下落となりました。この結果、国内・輸出向けともに数量・価格の両面で大きく低下し、当第1四半期のチタン事業の売上高は、4,904百万円（前年同期比50.3%減）となりました。なお、スポンジチタンの販売減に対応するため、生産面では生産能力増強計画の一部を延期するとともに、既稼働設備については、前年下期から実施している減産による生産調整を一段と強化しました。

一方、半導体・エネルギー関連事業では多結晶シリコンの販売価格が、半導体需要の低迷により下落に転じたことに加え、高純度チタンの販売量が減少しました。この結果、当第1四半期の半導体・エネルギー関連事業の売上高は、3,342百万円（前年同期比15.4%減）となりました。

以上の結果、当第1四半期の売上高は8,246百万円（前年同期比40.3%減）、利益につきましては、減産下での効率生産や徹底した緊急コスト削減の実施など収益確保に努めましたが、売上高の減少の影響が大きく、営業利益1,049百万円（前年同期比79.7%減）、経常利益742百万円（前年同期比85.9%減）、四半期純利益340百万円（前年同期比88.9%減）となりました。

[参考] 事業別売上高

(単位：百万円)

		当第1四半期	前年同期	増減率
チタン事業	国内	2,870	6,456	△55.5%
	輸出	2,034	3,407	△40.3%
	計	4,904	9,863	△50.3%
半導体・エネルギー関連事業		3,342	3,952	△15.4%
合計		8,246	13,815	△40.3%

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

① 資産

当第1四半期末の総資産の残高は、88,532百万円と前事業年度末と比べ8,397百万円減少いたしました。これは主に、売上高減少に伴う売掛金の減少によるものです。

② 負債

当第1四半期末の負債の残高は、42,401百万円と前事業年度末と比べ7,277百万円減少いたしました。これは主に、設備関係未払金の減少によるものであります。

③ 純資産

当第1四半期末の純資産の残高は、46,131百万円と前事業年度末と比べ1,119百万円減少いたしました。これは主に、四半期純利益による増加と配当金支払による減少を差し引きした結果、利益剰余金が減少したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末における現金及び現金同等物の残高は、245百万円となり前事業年度末と比べ3,056百万円減少いたしました。この内営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益と減価償却費を合わせたキャッシュ・フローの増加や売上債権の減少などで6,180百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資の支払を主体に7,504百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払などで1,725百万円の支出となりました。

3. 業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成21年4月28日発表の第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 一般債権の貸倒見積高

前事業年度末に算定した貸倒実績率と著しい変動がないと認められるため、当第1四半期末において、前事業年度の財務諸表作成で使用した貸倒実績率を用いて算定しております。

② 棚卸資産の評価方法

前事業年度末の実地棚卸高を基礎として継続記録法により棚卸高の算定をしている棚卸資産については、当第1四半期末の実地棚卸を省略しております。

③ 税金費用

年間の税引前利益に対する税効果適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額につきましては法人税等に含めて表示しております。また、繰延税金資産の回収可能性の判断に関しましては、前事業年度に対し一時差異、経営環境等に著しい変化がある場合においてはその影響を加味しております。

